

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特
集

第2回 すまいるフェスタ

～地域と未来をつなぐ医療交流イベント～



2026. 6 Vol.64

- ① 杉野院長就任のご挨拶
 - ②③④ 特集 すまいるフェスタ
 - ⑤ 看護部通信 「その人らしさ」を大切に認知症看護
 - ⑥ 地域医療連携ニュース 令和8年度、患者支援連携センターの体制が新しくなりました。
 - ⑦ インフォメーション 標榜科の新規開設（消化器腫瘍内科）、広報番組放送予定、県民公開講座予定、編集後記
- 外来診察担当医表（別紙）

院長就任の ご挨拶

院長 杉野 法広 (すぎの のりひろ)



令和8年4月1日から山口県立総合医療センターの院長を拝命しております杉野と申します。宜しくお願い申し上げます。

私は、昭和60年に山口大学医学部を卒業し、産婦人科を専攻しました。平成15年に山口大学医学部産科婦人科学講座・教授に就任し、令和8年3月31日に定年退職しました。大学病院では、体外受精・胚移植をはじめとする不妊症治療、ハイリスク妊娠などの周産期医療、悪性腫瘍の重症患者さんの治療に従事しました。また、研究では、卵巣や子宮内膜に焦点を当てた生殖医学の研究を行ってきました。平成29年からの6年間は、山口大学医学部附属病院の病院長を務め、新病棟の建設や新型コロナウイルス感染対策に携わりました。これまでの経験を活かし、本院の発展に尽力する所存です。

当院は、山口県の基幹病院として高度な医療や政策医療（感染症医療や災害医療）を行い、県民に質の高い医療を提供しています。近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。まず、高齢化によって、心筋梗塞、心不全などの心疾患、脳卒中（脳梗塞、脳出血）、肺炎、誤嚥、転倒による骨折等の高齢者救急医療が増加しています。また、医療技術の進歩は目覚ましく、今後、患者さんが求める医療ニーズは多様化、高度化していくことが予想されます。さらに、新型コロナウイルス感染症の経験や各地で多発している大規模な自然災害をみますと、感染症医療や災害医療も重要です。このような状況の中で、将来にわたって、本院が山口県の医療の中心的な役割を果たしていくために、病院機能を抜本的に強化した新病院建設の基本計画がまとめられました。現在、この新病院の建設に向けて、関係部署が検討しているところです。皆様のご期待に沿える病院が完成するよう全力を尽くします。

さて、85歳以上の高齢者の増加や人口減少が更に進む2040年とその先を見据え、国は医療体制の方向性を示しています。全ての地域・世代の患者さんが適切に医療・介護を受けながら生活でき、必要に応じて入院し退院後には日常生活に戻ることができることです。同時に、医療従事者についても、持続可能な働き方を確保する必要があります。具体的には、入院医療として、将来にわたる安定した急性期医療の確保や高齢者救急の受け入れ体制の整備が必要です。外来・在宅医療としては、外来医療を今後も受けられるような地域での体制づくりと在宅医療の受け皿の整備が必要です。これらの実現には、住民を含め地域の医療関係者の理解が不可欠です。そのため、地域における医療機関の役割分担と医療連携が益々重要となってきます。本院は、急性期医療、高度医療に力を注ぎながら政策医療を維持するとともに、医療連携を推進することによって、安定した地域医療が実現するように努めます。

山口県立総合医療センターが山口県の基幹病院として命と健康を守る砦となり、県民の皆さまが安心して医療を受けることができるように、職員が一致団結して様々な課題に取り組んでまいります。今後とも、ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

第2回

特集

すまいるフェスタ

～地域と未来をつなぐ医療交流イベント～

このたび、地域の皆さまに当院の取り組みや魅力を広く知っていただくことを目的として、山口県看護協会との共催で、第2回「すまいるフェスタ」を開催しました。

当日は、医療に関する情報発信をはじめ、住民の皆さまと医療従事者が交流できる場を設け、地域医療への理解を深めていただきました。また、医療分野に興味を持つ方々にとって、将来の学びやキャリアについて考えるきっかけの一つになったのではないかと感じています。

ここからは、第2回「すまいるフェスタ」で実施した各イベントの内容についてご紹介します。

笑顔あふれる発表会



院長挨拶～なかよし保育園発表会

杉野院長の開会挨拶により幕を開け、各ブースが順次オープンいたしました。

ステージイベントでは、当院の「なかよし保育園」の園児たちによる発表会が行われ、小さな体で一生懸命踊る姿に、会場からは温かなまなざしが注がれ、見守る保護者の皆さまの表情にも自然と笑顔が広がっていました。

心臓の音
聞きますね

調子は
どうですか？



医療スタッフになって記念撮影



医療スタッフなりきりフォトブース

子どもたちに人気の医療スタッフの仕事着を着用し、記念撮影を楽しめる体験コーナーを実施しました。写真撮影に加え、保護者の背中に聴診器をあてるなど、お医者さん気分を味わう子ども達の姿が印象的でした。

看護部・総合周産期母子医療センター・看護協会共催ブース

聴診器を使って心臓の音を聞く体験や、看護師による健康相談、肌年齢・血管年齢・骨年齢測定、アロマオイルやスプレー作り体験を実施しました。

また、デモ人形とAEDを用いた救急救命体験や、赤ちゃん人形の抱っこ・オムツ交換体験、妊婦ジャケットを着用しての妊婦体験も行いました。参加者には、看護や健康の大切さをはじめ、育児や妊婦への理解を深めていただく貴重な機会となりました。

看護や健康の大切さ体験



すまいるフェスタ

～地域と未来をつなぐ医療交流イベント～

実施日

2026年 5月10日(日)

10:30～14:30

病院見学ツアー

(ロボット手術・手術室・放射線治療施設)

病院見学ツアーでは、手術室や放射線治療施設の見学、ロボット手術やカテーテル体験等を実施しました。特に手術支援ロボット「ダヴィンチ」の操作体験では、参加者から「楽しい」「面白い」といった声が多く寄せられ、大変好評でした。

大好評のダヴィンチ操作体験



オンライン診療

医療サービスと移動サービスを組み合わせた「医療MaaS車両」の試乗体験を実施しました。参加者にオンライン診療や医療MaaSを知っていただく良いきっかけとなりました。

診察室側

(())

医療MaaS車両側



調剤体験・電気メス体験



DMAT 資機材展示・同乗体験

DMAT 災害派遣医療チーム
Disaster Medical Assistance Team

災害現場へ出動する際に携行する資機材の展示や、DMAT車への同乗体験を実施しました。同乗された方にはDMAT隊員用の帽子を着用していただき、DMAT隊員の活動や雰囲気を感じていただきました。

おしごと体験ブース
(調剤体験・電気メス体験等)

薬剤師による「お菓子を錠剤に見立てた調剤体験」や、臨床工学技士による「電気メスを用いた焼灼体験」などを実施しました。

参加者からは「将来の職業を選択する上での貴重な経験となった」といった声が寄せられ、職業理解を深める契機となりました。

学び体験ブース

(食育・てんかん・糖尿病・がん・認知症)

1日の目標野菜摂取量を量れるかチャレンジする野菜重量測定やクイズ、輪投げ・ゲームを通じて、てんかんや糖尿病、がんなどのさまざまな疾患について楽しく学んでいただきました。

また、iPadを活用した脳トレや認知症VR体験コーナーは、やや混雑するほどの盛況となり、多くの参加者から高い関心をいただきました。



クイズやゲームで学ぼう!



大人気のわくわくえんにち

わくわくえんにち
(射的・釣り・輪投げ)

条件をクリアすると、お菓子やポップコーン、綿菓子と交換できる「子どもの遊び場」を設置しました。射的などの遊びを楽しんだ子どもは約340名にのぼり、会場は終始にぎわいを見せました。

甘くて
美味しいよ!!

餅まき・お菓子まき

島田県議会議員と山口県看護協会の原田会長にもご参加いただきました。



イベントの感想 | Event impressions

実行副委員長 田島副院長 兼 看護部長

5月10日(日)、第2回すまいるフェスタを開催いたしました。当日は晴天にも恵まれ、多くの皆さまにご来場いただき、笑顔あふれる一日となりました。

「看護の日・看護週間」に合わせて行うこのイベントは、看護の魅力や医療現場の実際、院内で働く職員の様子を知っていただくと同時に、命と健康に関心を持っていただきたいとの願いから開催しています。

今年は、地域の方々に加え、将来看護師を目指す学生さんや職員のご家族も多数ご来場いただいております。すまいるフェスタが、より多くの皆さまに親しまれるイベントとなっていることを実感いたしました。

ご来場いただいた皆さま、ご共催いただいた山口県看護協会様、準備運営に携わっていただいた全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

実行委員会事務局代表 松本主任主事

2回目の開催となる今回は、前回よりもさらに幅広い年齢の方に楽しんでいただけたよう、事前に何度も協議を重ねながら、それぞれのブースの内容や運営方法について準備を進めてまいりました。

当日は、多くの皆さまにご参加いただき、特に小さなお子様連れのご家族を中心に、さまざまな企画を楽しむ姿が見られ、会場は終始賑わいを見せていました。普段とは違う形で、病院や医療を身近に感じていただける機会となっていれば幸いです。

来場者アンケートでは「また来たい」といった嬉しいお声も多くいただき、地域の皆さま、関係者の皆さまに支えられながら無事開催できたことを、事務局としても大変嬉しく感じております。

看護部
通信

「その人らしさ」を大切にした認知症看護

認知症看護認定看護師 安田 良子

当院では、認知症の方が安心して治療や療養を受けられるよう、認知症看護認定看護師が中心となり、環境調整や「その人らしさ」を大切にした支援を行っています。認知症は記憶や判断力の低下だけでなく、環境の変化によって不安や混乱が強くなることがあります。入院という慣れない状況は、認知症の方にとって大きな負担となるため、「その人らしさ」を大切にしながら、安心できる環境づくりが必要です。また、認知症の方は、認知機能の低下に伴い、生活のしづらさを感じていらっしゃる事も多くあります。そのため、本人の視点を大切に、認知症の方と「ともにある」という意識を持ちながら接することが安心に繋がると考えています。

認知症看護認定看護師の大きな役割の一つは、患者さんへの直接的なケアです。生活歴やこれまでの習慣、ご本人の思いを丁寧に伺い、安心して過ごせるよう関わり方を工夫します。また、入院中だけでなく、退院後も不安がないように援助させていただきます。

もう一つの大きな役割は、スタッフへの相談対応です。認知症の方への関わり方は、ちょっとした声かけや環境調整によって大きく変わります。私たち看護師は、幅広い業務を担当しており、思うような看護が出来ないことに葛藤を感じたり、看護の方向性に悩むこともあります。そのような中でも、認知症の方へのより良い看護について、一緒に考えていきたいと思っています。

さらに、ご家族への支援も重要な役割です。ご家族の不安や悩みを伺い、制度の活用方法や地域資源について情報提供を行いながら、その時々状況に応じた援助を行っています。また、認知症ケアサポートチーム・身体拘束最小化チームの活動を通して、認知症の方とご家族が安心できる環境づくりに、多職種で連携しながら取り組んでいます。これからも、認知症の方とご家族が安心して過ごせる環境づくりを目指し、支援を続けてまいります。

地域医療連携
NEWS

令和8年度、患者支援連携センターの体制が新しくなりました。
新しい職員配置は次のとおりです。
どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年度 患者支援連携センターの体制

担当・責任者	室 員	連絡先
①地域医療連携室 室長 滝口	室次長 秋山 (前方連携) MSW 石崎 看護師 岸田 事務 西村、赤間、藤本、永井 (後方連携) MSW 池田、内司、齋藤、野村、 道中、佐々野、永妻、山根 看護師 貞光、土井、坂本	(前方連携) TEL 0835-22-5355 FAX 0835-22-5184 (後方連携) TEL 0835-22-5145 FAX 0835-22-5745
②医療相談室 室長 嶋村	室次長 水野 (②③④兼務) MSW 今徳 (②③④兼務) 中川 (②③④兼務)	TEL 0835-28-2084 FAX 0835-22-5745
③がん相談支援センター 室長 嶋村	PSW 渡邊 (②③④兼務) 保健師 古賀 (③④兼務)	TEL 0835-28-8127 FAX 0835-22-5745
④認知症疾患医療センター 室長 嶋村	公認心理師 坂本 (④)	TEL 0835-28-7856 FAX 0835-22-5745
⑤入退院支援センター 副センター長 村上	看護師 高橋、神徳、原田、山縣、 村田、近棟、伊藤、中村	TEL 0835-22-4411 (病院代表)

着任のご挨拶



地域医療連携室 室長 滝口 治代

このたび着任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
地域連携の業務には不慣れな点もございますが、スタッフの皆さんのお力をお借りしつつ取り組んでまいりたいと存じます。
微力ではありますが、地域の医療・福祉機関の皆さまとともに、安心して医療や支援につなげられるよう調整の一端を担ってまいります。
今後ともご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



がん相談支援センター・認知症疾患医療センター 主任 古賀 聖典

4月より、がん相談支援センター・認知症疾患医療センターに着任しました保健師です。「誰に相談したらよいかわからない…」そんな時に気軽に立ち寄っていただける存在を目指しています。
治療のこと、生活のこと、気持ちのこと、どんな小さな悩みでも大歓迎です。一緒に考えながら、少しでも前向きになれるようサポートします。どうぞよろしくお願いいたします。



○消化器腫瘍内科の新設(令和8年4月)

消化器がんは罹患数が多く、適切な薬物療法の実施が患者予後に大きく影響します。

このたび、当院所属の田島医師が令和7年4月に「がん薬物療法専門医」の資格を取得したことを受け、新たに「消化器腫瘍内科」を標榜し、診療体制の一層の強化を図りました。



カンファレンスの様子

やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送日時	放送内容	出 演	二次元コード
7月 4 日(土) 18:55~19:00	ロボット支援下直腸切除術 ～Q O Lを守る手術を目指して～	外 科 原田 栄二郎 医師	
7月 8 日(水) 16:00頃～			
8月 1 日(土) 18:55~19:00	アトピー性皮膚炎でお悩みのお子さんへ ～小児アレルギー相談外来～	小 児 科 長谷川 真成 医師 清水 美保 医師 景山 佳子 看護師 近森 愛里 看護師	
8月 5 日(水) 16:00頃～			

令和8年度 県民公開講座 開催予定

開催日時	テーマ	講師	開催方法
8月8日(土) 14:00~15:00	不妊治療	婦人科(生殖医療) 浅田 裕美 医師	オンライン
10月24日(土) 14:00~15:00	てんかん	脳神経外科 藤井 正美 医師	当院2階大会議室
12月5日(土) 14:00~15:00	頭頸部がん	頭頸部外科 竹本 剛 医師	オンライン
2月6日(土) 14:00~15:00	消化器腫瘍	消化器腫瘍内科 田島 邦彦 医師 外科 原田 栄二郎 医師	院外 (※調整中)

お知らせ

今年度の県民公開講座は、院内での「集合型とWeb参加型のハイブリッド式」または「オンライン」での開催に加えて、「院外」での開催も予定しています。日程により開催方法が異なりますので、ご注意ください。

受講料
無料

編集後記

今

回のイベントでは広報担当として、集客に向けたポスターやチラシの作成、Instagramへの投稿、テレビや広報誌など外部媒体へのPR調整を行いました。

当日までどのくらいの方にご来場いただけるか不安もありましたが、最終的には約1,100名の方にお越しいただきました。

病院見学ツアーや各種ブースでの体験を通して、来場者の皆さまが楽しんでいる様子を直接見ることができ、大変嬉しく感じました。

今後も地域の皆さまとのつながりを大切にしながら、当院をより身近に感じていただけるよう努めてまいります。(総務課Y.A)

当院の

Instagramは
こちら!
お気軽にフォロー
してください。



【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する。



山口県立総合医療センター

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymgph.jp/>